

第31回日本フィッシュン・トラック研究会実施報告

山田隆二

概要

第31回日本フィッシュン・トラック研究会は、2006年12月8日(土)9日(日)にわたり、笹尾英嗣会員、山田国見会員ほか(独)日本原子力研究開発機構東濃地科学センター関係者のご協力により、岐阜県瑞浪市にある同機構瑞浪国際地科学交流館を主会場に開催された。研究会では下記の22名の出席があり、17件の一般講演、総会、東濃地科学センターの施設見学会および瑞浪層群の巡検が行われた。

出席者(所属)(五十音順)

荒田孔明(金沢大学)、郁芳随徹(金沢大学)、石原崇(金沢大学)、伊藤一充(金沢大学)、伊藤久敏(電中研)、伊藤健太郎(金沢大学)、稲垣有香(金沢大学)、大平寛人(島根大学)、笹尾英嗣(原子力機構)、住田亮輔(金沢大学)、竹内圭史(産総研)、坪井麻里子(武蔵工大院)、永田寛(武蔵工大工)、西村進(京都自然史研究所)、橋本哲夫(新潟大学)、長谷部徳子(金沢大学)、花室孝広(原子力機構)、本多照幸(武蔵工大原研)、水野崇(原子力機構)、宮本一宏(金沢大学)、村松敏雄(一般)、山田国見(原子力機構)、山田隆二(防災科研)、渡辺公一郎(九州大学)

I. 総会(12月9日11:15—12:00実施)の報告

2006年FT研究会総会(12月9日11:15—12:00、13日11:40—12:00実施)報告メモ

1. 新体制について

2006年4月からの運営体制が以下のように承認された。

- ・ 会長 山田隆二(任期は2年)
- ・ 委員 角井朝昭・大平寛人・岩野英樹・本多照幸・山田国見*(任期は2年)
- ・ 編集委員会代表 山田国見(任期は2年)
- ・ 会計監査 大平寛人(任期は1年)

*委員のうち一名は編集委員会代表が兼務する。

2. 名簿の整理について

会員の現状把握および個人情報保護への対応のため名簿整理作業が進められていることが報告された。

- ・ 現状把握のため名簿の内容についての加筆・修正の問い合わせを各会員に行い、大多数から回答が得られたことが報告された。回答が得られなかった会員については、氏名のみ名簿に掲載することとする。
- ・ 個人情報保護への配慮として、以下の3点が確認された。
 - 公開する所属(職場・自宅)は1つのみ。
 - 住所・電話番号・メールアドレスなどの項目ごとに公開・非公開の希望を尊重する。
 - 名簿は情報案内にのみ利用し、会員以外には公開しない。
- ・ 会員区分の見直しとして、学生会員枠の新設が提案・承認された。2006年在籍会員から適用される。
 - 「学生会員」学部生および修士大学院生を対象とする。学生会員は、学部・修士卒業(あるいは中退)に伴い会員籍が失効するが、申し出があった場合には一般会員となる。学生会員の会費は

1000円とする。

3. 新入・退会員

今年度新入会員はなかった。退会員の承認は、前項の名簿の整理が完了後、来年度以降に行うことになった。

4. 会計報告

大会会員より収支状況が報告された。年会費による収入と、主としてニュースレター（以下 FTNL）印刷による支出がほぼ均衡しているため、会費納入状況の悪化した場合に即赤字になる可能性が示され、収支構造の見直しが提起された。以下の収支構造の見直し案が示された。しかし、今年度は未だ逼迫した財政状況にはないため、緊急の対策実施は行わず次年度以降も引き続き議論されることになった。

- ・ 個人寄付（寄付者名を FTNL に掲載）。
- ・ FTNL への広告掲載：FTNL の購読は別途扱う。
- ・ 購読会員の 신설：企業による FTNL 購読は可能だが議決権を持たない点が賛助会員とは異なる。なお、FTNL の価格設定・販売の形は取らない。FTNL への広告掲載は別途扱う。
- ・ 会費の値上げ：会員の研究発表会参加時の費用を研究会が一部補填する形で還元し、実質的な負担を変えないこととし、研究発表会への参加を促す。しかし、名目上の会費値上げは会員の減少を招く可能性がある。

5. ニュースレター関連

本年 10 月 7 日に、修正以前の会員名簿と会費請求書を同封したニュースレター No.19 が発送された。今回の研究会の講演要旨および論説等の投稿の〆切は 2007 年 3 月 31 日。投稿様式等は、別途山田国見編集委員会代表より連絡される予定。

6. 国際会議報告

On Track（国際的なフィッション・トラックコミュニティのニュースレター）vol. 27 に掲載された 2006 年開催のフィッション・トラック関連国際学会について参加者から報告がなされた。

- ・ European Conference on Thermochronology, July 30—August 04, 2006, Universität Bremen, Bremen, Germany
- ・ 16th Annual V.M. Goldschmidt Conference 2006, 27 August—1 September 2006, Melbourne Exhibition and Convention Centre, Melbourne, Australia

7. その他

- ・ 次回候補地について
- ・ 平成 18 年度 石油・天然ガス開発・利用促進型大型研究提案への応募課題「油ガス層把握をめざした沿岸域の熱史データベース構築と海盆における熟成度予測への応用」（代表長谷部徳子会員）へのバックアップご協力をお願い

II. 特別講演

約 40 年の長きにわたり放射化学界に多大なるご貢献をしてこられ、今年度新潟大学をご退官なさる橋本

哲夫氏を講師に迎え、「アルファ反跳現象・原子炉中性子反応・FT・ルミネッセンス研究の40年をふり返って」と題して特別講演をしていただいた。

III. 懇親会

12月8日(金) 18時より瑞浪国際地科学交流館食堂にて行われた。研究会出席者全員が参加し、全員の近況報告を兼ねた自己紹介や近況報告などが行われた。引き続き、会場近くの宿泊先(あけ世温泉観月荘)へ移動し、夜遅くまで懇親を深めた。

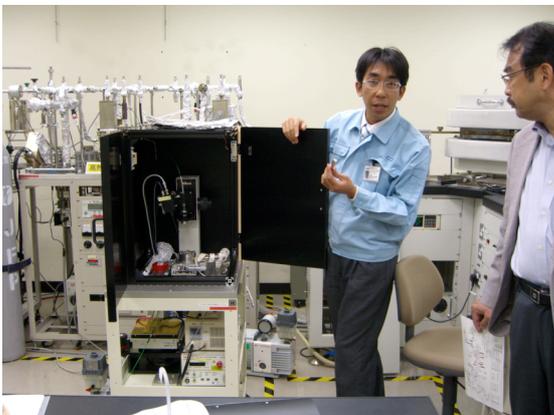
IV. 見学会・巡検

12月8日(金) 12:00—13:00に約20名が参加して、東濃地科学センター(岐阜県土岐市)にて、開発が進む国内初のU-Th/He年代測定システムおよび¹⁴C年代測定に用いられるペレトロン(タンデム型加速器質量分析計)といった年代測定関連施設の見学を行った。12月9日(土)午後約20名が参加して、瑞浪超深地層研究所立坑掘削現場(岐阜県瑞浪市)の見学会および瑞浪層群の巡検(露頭観察、瑞浪市化石博物館見学)があいにくの雨天のなか行われた。

以上



瑞浪国際地科学交流館にて。



施設見学(左:(U-Th)/He, 右:ペレトロン)